



FOREST FESTIVAL OF
THE ARTS OKAYAMA

森の芸術祭 岡山

森の芸術祭 晴れの国・岡山

Forest Festival of the Arts Okayama:
Clear-skies Country

Press Release | Ver.3 | 2024.6.7



「森の芸術祭 晴れの国・岡山」開催まであと110日余り！
追加参加アーティストや展示会場などの最新情報を発表

報道関係者からの
お問い合わせ先

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」PR事務局(株式会社TANK)

Tel: 03-6427-6270 | Fax: 03-5469-0680 | E-MAIL press@forestartfest-okayama.jp

担当:

甲斐 | 070-3815-6246 | kai@tankpr.jp

榎本 | 090-7835-0933 | enomoto@tankpr.jp

タイトル	「森の芸術祭 晴れの国・岡山」		
会期	2024年9月28日〔土〕－11月24日〔日〕		
開催エリア	岡山県内の12市町村 (津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町)		
作品展示エリア	津山 津山城周辺エリア、グリーンヒルズ津山エリア 奈義 奈義町現代美術館周辺エリア 新見 満奇洞・井倉洞エリア 真庭 蒜山エリア 鏡野 奥津エリア		
アートディレクター	長谷川祐子(キュレーター、美術評論家、金沢21世紀美術館館長)		
主催	「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会(会長:伊原木隆太 岡山県知事)		
Webサイト	https://forestartfest-okayama.jp		
参加アーティスト	国外:16名／国内:20名(岡山:3名) 13ヵ国 35組 36名		
国外アーティスト／ 順不同	[出身国]		[在住国]
	レアンドロ・エルリッヒ	アルゼンチン	アルゼンチン／フランス
	アンリ・サラ	アルバニア	フランス
	キムスージャ	韓国	韓国
	リクリット・ティラヴァニ	アルゼンチン	タイ
	タレク・アトウイ	レバノン	フランス
	ジェンチョン・リョウ	台湾	台湾
	ピアンカ・ボンディ	南アフリカ	フランス
	スミッタ・G・S	インド	インド
	オウティ・ピエスキ	フィンランド	フィンランド
	アシム・ワキフ	インド	インド
	ジャコモ・ザガネッリ	イタリア	イタリア
	ウメッシュ・P・K	インド	インド
	パオラ・ベザーナ	イタリア	没
	ムハンナド・ショノ	サウジアラビア	サウジアラビア
	and more...		
国内アーティスト／ 順不同	坂本龍一＋高谷史郎／森山未来／川内倫子／蜷川実花／妹島和世／立石従寛／片桐功敦／AKI INOMATA／上田義彦／磯崎 新／東 勝吉／東山詩織／川島秀明／森 夕香／八木夕葉／染谷悠子		
地元アーティスト／ 順不同	太田三郎／杉浦慶侓／江見正暢		
	and more...		
チケット	鑑賞パスポート 一般:2,500円(前売) 3,000円(当日) 大学生・専門学生:1,500円(前売) 2,000円(当日) 単館鑑賞券 一般・大学生・専門学生 700円		



フェスティバルの 特徴

森の誘惑

行ったことのない場所、思いがけない場所でアートと出会う驚きと魔術にかかるときめき。

森林、洞窟、溪流と滝、温泉、高原、大正ロマン薫る洋館、人間と動物がともに展示される不思議な自然史博物館、アートと建築が大胆に合体した美術館、江戸時代の日本庭園で供されるアーティスト作の驚きのランチ。

クリエイター、コラボレーター百花繚乱

ダンサー、シェフ、華道家、音楽家、建築家、デザイナー、染色家、工芸家、映像作家など、各国から集まったアーティストたち、そして沢山のコラボレーション。

森のエコロジーと新しい資本

エコロジカルマインド:ともにあるもの、co-beingとして森をとらえたさまざまなイメージ:絵画、写真、インスタレーション。文化資本としての場の記憶、自然環境資本としての森や洞窟、社会インフラとしての公共空間が「新しい資本」として生まれ変わる。

フェスティバル コンセプト

古代より大和と出雲を結ぶ出雲街道が東西に延び、近世には城下町・宿場町として栄えたこの地には、さまざまな伝統建築や工芸、芸能などのレガシーが残されています。大地や森からは果物や木材などの恵みがあり、その豊かさをサステナブルにするためのさまざまな試みがなされており、なかでも木質バイオマス発電など森林資源を生かした取り組みはSDGsの先駆モデルとして評価されています。また蒜山高原をはじめ、美作三湯、鍾乳洞など、過度に観光地化されていない悠々とした時空間は、エコロジー思考における新しい可能性を秘めています。

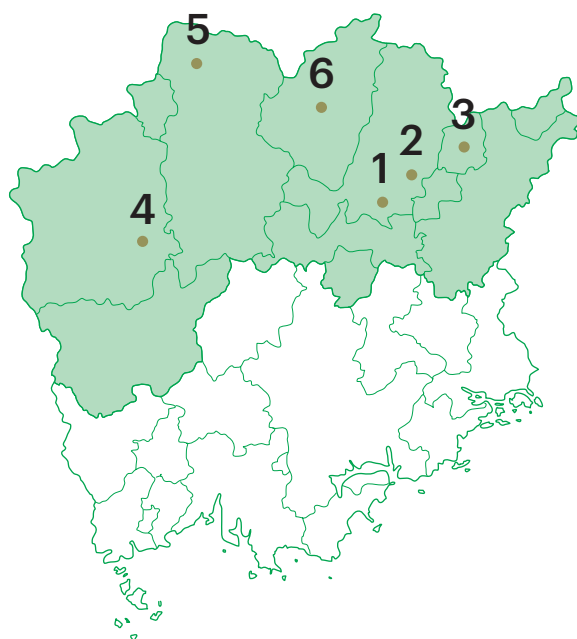
森の芸術祭という名称は、温暖な気候、豊かな水や資源、食など、私たちが生きる上で大切な要素を満たしているこの地域の、自然の恵みや文化、人々が集まる場所としての多様性と豊かさを象徴する「森」からきています。

本芸術祭は、その「森」がもたらす「恵み」を芸術の力で未来に向けて活性化することを目的とし、「本当に必要な資本とは何か?」を問いかけます。美術館や記念館や学校などの文化施設、水やエネルギー、食の供給といった生活のインフラ、自然環境を共通の資本と考え、アーティストのみならず、建築家、科学者、民俗学者といった専門家も交え、地域の人々の協力を得ながら「新しい資本」をつくりあげていきます。

芸術は多様な考えを反映するとともに、これを人々に共感させ、新しい世界やものの見方に向けての想像力を養います。それは「驚き」「感動」「わくわく感」「ときめき」「生きていることの喜び」「深く感じ考えることの充足感」をもたらします。県北というひとつのエコロジーが芸術のエネルギーを得て、人々の心や感性をリフレッシュさせる「場」に変容します。晴れの国の森の住民たちの祝祭は、それを祝う祭となります。

アートディレクター 長谷川祐子

開催エリアと 主なアーティスト



1. 津山城周辺エリア | 2. グリーンヒルズ津山エリア



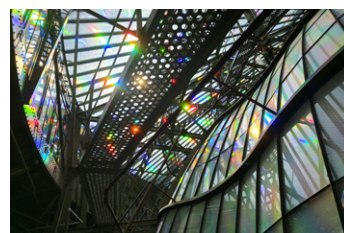
会場：城西浪漫館(中島病院旧本館)



ビアンカ・ボンディ



会場：津山まなびの鉄道館



キムスージャ



会場：グリーンヒルズ津山

Coming Soon!

3. 奈義町現代美術館周辺エリア



会場：
屋内ゲートボール場「すぱーく奈義」

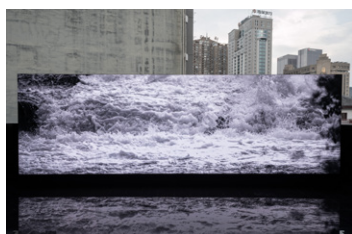


レアンドロ・エルリッヒ

《スイミング・プール》
2004
金沢21世紀美術館蔵
Photo: 渡邊修
写真提供：
金沢21世紀美術館



会場：奈義町現代美術館



坂本龍一＋高谷史郎

5. 蒜山エリア

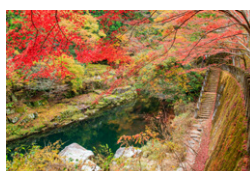


会場：
GREENable HIRUZEN



スミッタ・G・S

6. 奥津エリア



会場：奥津溪

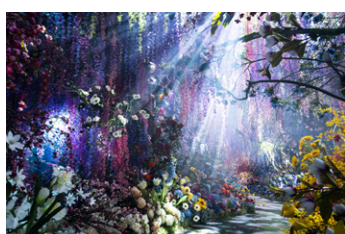


立石従寛

4. 満奇洞・井倉洞エリア



会場：満奇洞



蜷川実花



参加アーティスト

レアンドロ・エルリッヒ | Leandro Erlich

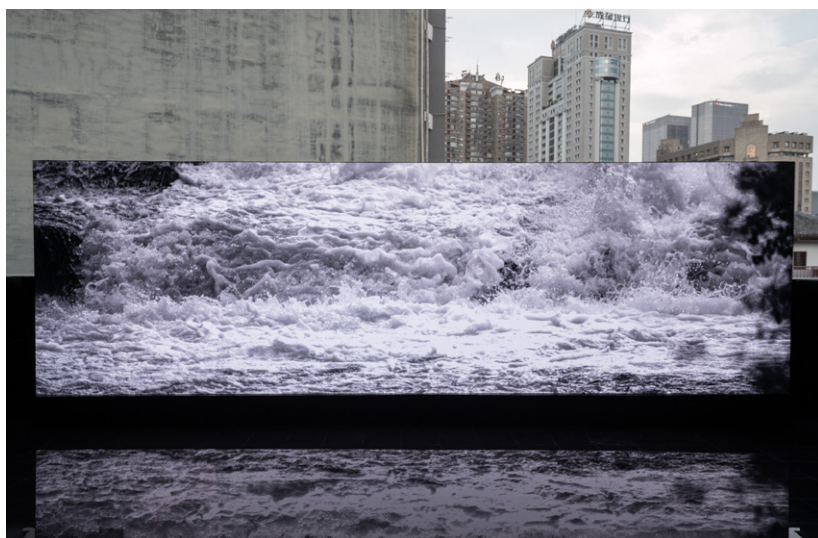


レアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》2004
金沢21世紀美術館蔵 | Photo: 渡邊修 | 写真提供: 金沢21世紀美術館

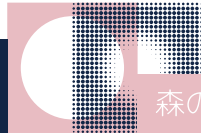
坂本龍一＋高谷史郎 | Ryuichi Sakamoto + Shiro Takatani



Photo: Neo Sora
© 2020 Kab Inc.



坂本龍一＋高谷史郎《TIME-déluge》2023
木木美術館(中国、成都)「坂本龍一 | 一音一時」展での展示風景 | Photo: 高谷史郎



参加アーティスト

森山未来 | Mirai Moriyama



© Takeshi Miyamoto



江戸時代から奈良時代に伝わる伝統芸能である横仙歌舞伎の稽古に参加する森山未来。
森山は、現代における祭事や、地域コミュニティを再考し再構築していくためのイベントを目指す。

アンリ・サラ | Anri Sala



© Wolfgang Stahr

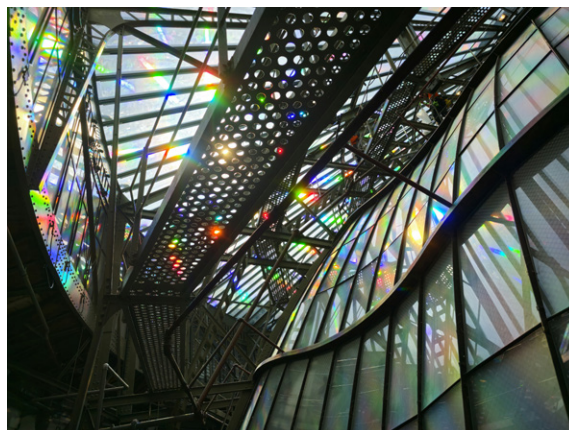


Anri Sala, *Time No Longer*, 2021
Computer-generated imagery, multichannel sound, dynamic lights 13 min
Courtesy: Marian Goodman Gallery. Produced with the support of [N.A!] Project
Credits line for the images : Exhibition views from "Time No Longer" at Bourse de Commerce, 2022
— Courtesy Anri Sala & Bourse de Commerce-Pinault Collection —
© Anri Sala / VG Bild-Kunst, Bonn, 2022 - Photography by Andrea Rossetti

キムスージャ | Kimsooja



Photo: Giannis Vastardis
Courtesy of EMST, Athens,
Greece and Kimsooja Studio

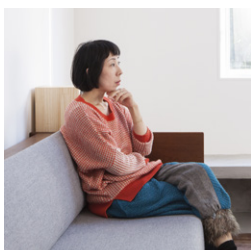


Kimsooja, *To Breathe*, 2023
Site-specific installation consisting of diffraction grating film.
Installation view at Galeries Lafayette Haussmann, Paris, France, 2023
Photo: Jaeho Chong | Courtesy of Lafayette Group and Kimsooja Studio.



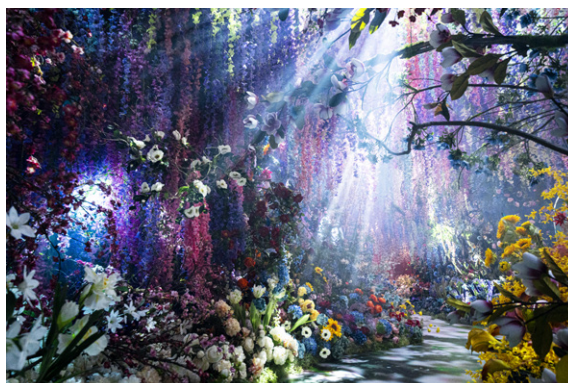
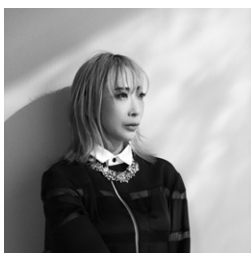
参加アーティスト

川内倫子 | Rinko Kawauchi



川内倫子《無題》(シリーズ〈Illuminance〉より)

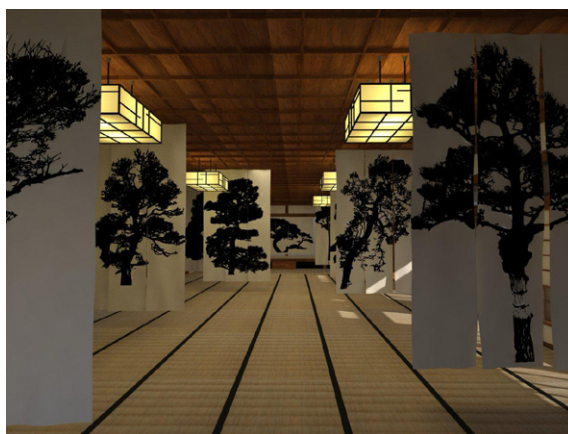
蜷川実花 | Mika Ninagawa



リクリット・ティラヴァニ | Rirkrit Tiravanija



Photo: Pauline Assathinay



Courtesy of Rirkrit Tiravanija



参加アーティスト

妹島和世 | Kazuyo Sejima

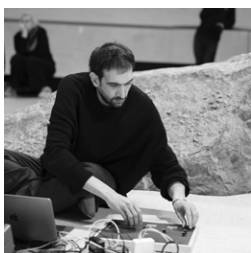


© SANAA



© SANAA

タレク・アトウイ | Tarek Atoui



Waters' Witness_04-dec-2022_
Performance at MUDAM
(Luxembourg) w: Yann Leguay
© Eike Walkenhorst18



Tarek Atoui, *The Wind Harvester*
Thailand Biennale at Chiang Rai | © Wanchai Phutthawarin

ジェンチョン・リョウ | Chien-Chung Liao



Chien-Chung Liao, *Looking towards the Home*
Photo: mt.project



参加アーティスト

立石従寛 | Jukan Tateisi



© Jukan Tateisi



立石従寛《Abiotope》2019
© JukanTateisi

ビアンカ・ボンディ | Bianca Bondi



Photo: Laurent Lecat



Bianca Bondi, *Screaming in Astral Ponds*, 2022
Photo: Jean-Christophe Lett
© MAMAC, Nice / Bianca Bondi / ADAGP

スミッタ・G・S | Smitha G S



Smitha G S, *Untitled*, 2022
Acrylic on Canvas

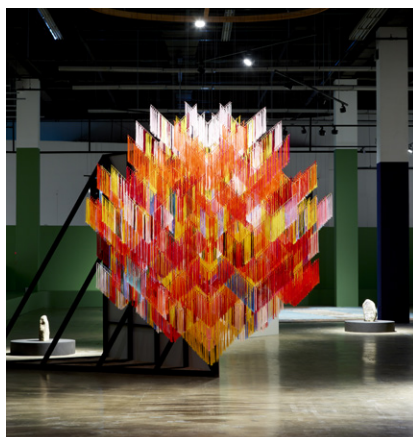


参加アーティスト

オウティ・ピエスキ | Outi Pieski



Photo: Heikki Tuuli



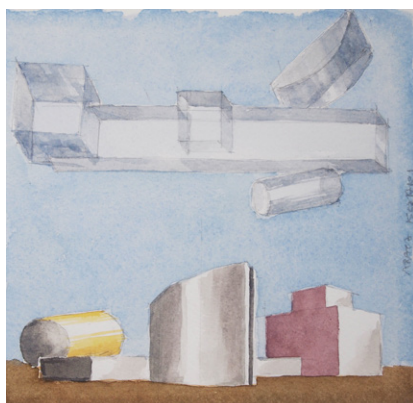
Outi Pieski, *Beavvit- Rising Together II*, 2021

Photo: Sang Tae Kim | Courtesy: Minds Rising, Spirits Tuning, The 13th Gwangju Biennale

磯崎 新 | Arata Isozaki



Courtesy of
Arata Isozaki & Associates



磯崎新 (Nagi Museum of Contemporary Art) 1993

Watercolor on paper | 17.4 × 18.0 cm

© Estate of Arata Isozaki

ジャコモ・ザガネリ | Giacomo Zaganelli



Photo: Silvia Piantini



Giacomo Zaganelli, Somsed Temporary Cultural Center, Thailand Biennale 2021, Korat Thailand



参加アーティスト

アシム・ワキフ | Asim Waqif

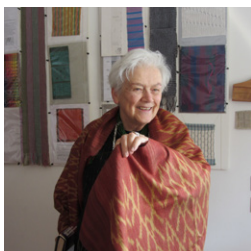


Photo: Richa Sahai



Asim Waqif, *Improvise*, 2022
Site specific installation for the Kochi Muziris Biennale
Bamboo, woven pandanus leaves, and ropes | Photo: Kochi Muziris Biennale

パオラ・ベザーナ | Paola Besana



Paola Besana, *Una Strada Lunga*, 1971

ムハンナド・ショノ | Muhannad Shono

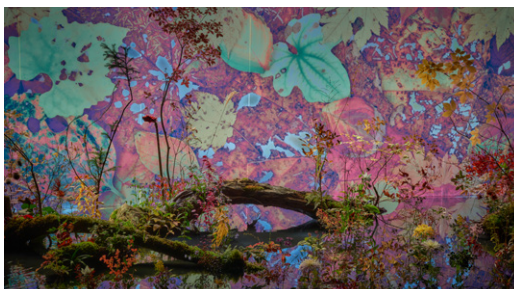
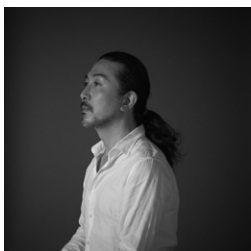


Photo: Artur Weber



Muhannad Shono, *And to Flounder in This Sea Is Sweet to Me*
Courtesy of Sea Art Festival Busan

片桐功敦 | Atsunobu Katagiri



片桐功敦《LIGHT OF FLOWERS》2021年



参加アーティスト

太田三郎 | Saburo Ota



Photo: 柴田れいこ



太田三郎《庭の情景》

ウメッシュ・P・K | Umesh P K



Umesh P K, *Light flows like water*, 2017

東 勝吉 | Katsukichi Higashi



東勝吉《オニ杉》2004
由布院アートストック蔵



東勝吉《川西から見た由布山》
由布院アートストック蔵

染谷悠子 | Yuko Someya



Photo: Kenji Takahashi



染谷悠子《知でなく意ではない。》2023
Chinese ink, water color, pencil, lithograph ink, Japanese paper on canvas mounted on wood panel
52.5 x 68.5 cm / frame: 54.5 x 70.5 cm
Photo: Kenji Tskahashi | Courtesy of Tomio Koyama Gallery



参加アーティスト

東山詩織 | Shiori Higashiyama

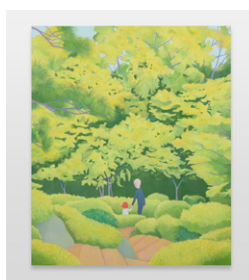


東山詩織《Green Dimensions》2023 | 水彩、色鉛筆、和紙、パネル | 53 × 65 cm

川島秀明 | Hideaki Kawashima



Photo: Kenji Takahashi



左: 川島秀明《Guide》2023 | oil, acrylic on canvas | 194.5 × 162.0 cm
Photo: Kenji Takahashi | Courtesy of Tomio Koyama Gallery
右: 川島秀明《Stream》2023 | oil, acrylic on canvas | 162.5 × 194.4 cm
Photo: Kenji Takahashi | Courtesy of Tomio Koyama Gallery

森 夕香 | Yuka Mori

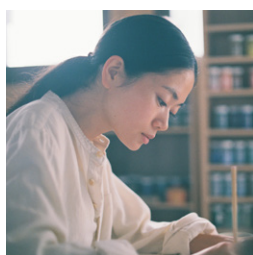
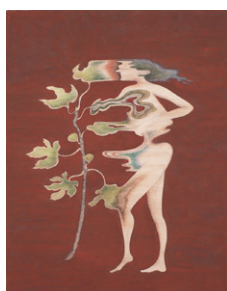


Photo: 池田太朗

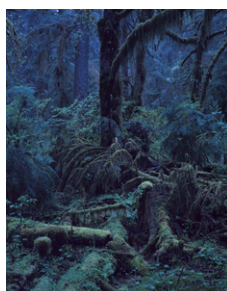


左: 森夕香《取り込む体》2023 | 和紙、日本画顔料 | 31.8 × 41cm
右: 森夕香《世間話》2023 | 和紙、日本画顔料、掛軸 | 24.2 × 33.3 cm

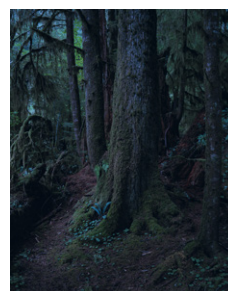
上田義彦 | Yoshihiko Ueda



Photo: Yoshiko Kojima



上田義彦《Quinault, No.1》
1991



上田義彦《Quinault, No. 39》
1990

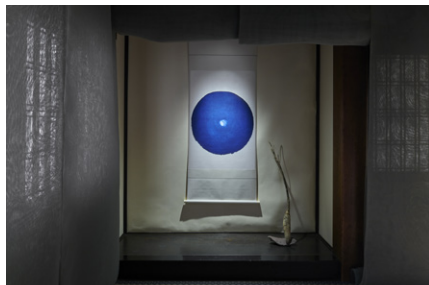


参加アーティスト

八木夕菜 | Yuna Yagi

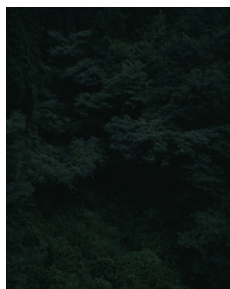


Photo: Tomoko Hayashi



八木夕菜《Light/光》2021
Cyanotype print on Japanese paper, Kakejiku | W634 × H957 mm
© Takeshi Asano-KYOTOGRAPHIE 2021

杉浦慶侑 | Keita Sugiura



杉浦慶侑(シリーズ〈新見山〉より)2017

AKI INOMATA



撮影:朝岡英輔



AKI INOMATA《昨日の空を思い出す》2022- ongoing

江見正暢 | Masanobu Emi



万華鏡

1873年に津山で創業した江見写真館五代目の江見正暢は、写真館を営業する傍ら、40年以上ステンドグラスの制作にも取り組み、ランプや万華鏡の小さな世界に魅了され、現在も制作を続けている。

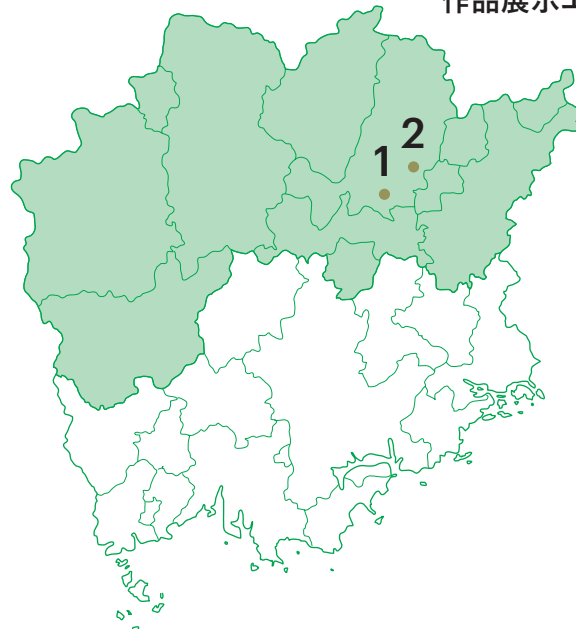
1. 津山 | 津山城周辺エリア

自然環境や文化等の資本が交錯し、江戸時代から近代への歴史をたどる場所

2. 津山 | グリーンヒルズ津山エリア

広大な敷地内にカフェや遊歩道、フラワーガーデンなどが点在する地域の憩いの場

作品展示エリア



グリーンヒルズ津山



作州民芸館



衆楽園



城西浪漫館(中島病院旧本館)



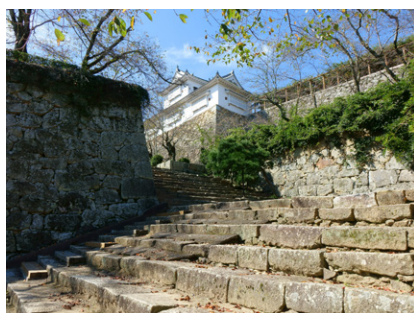
津山国際ホテル跡地



つやま自然のふしぎ館



城東むかし町家(旧梶村邸)



津山城(鶴山公園)



津山まなびの鉄道館



PORT ART & DESIGN TSUYAMA

3. 奈義 | 奈義町現代美術館周辺エリア

作品と建物が半永久的に一体化した世界で初めての体感型美術館を有し、全国トップクラスの合計特殊出生率を誇る「奇跡の町」



奈義町現代美術館

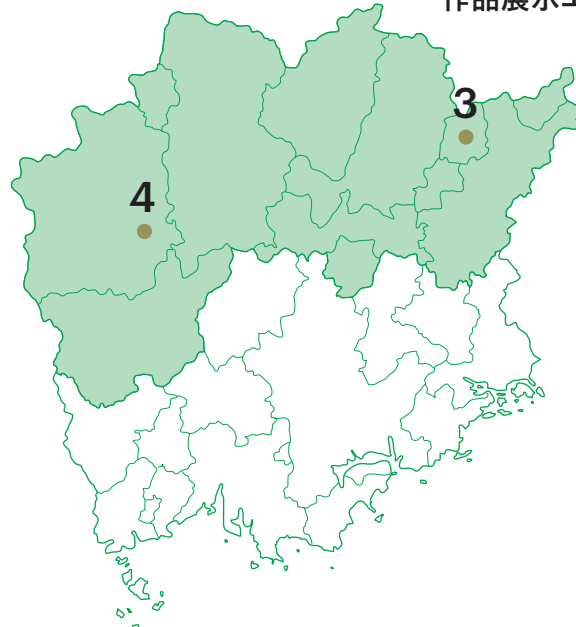


シンボルロード



屋内ゲートボール場「すぱーく奈義」

作品展示エリア



4. 新見 | 満奇洞・井倉洞エリア

悠久の時を経て生み出された自然の造形美が広がるエリア



井倉洞



ふれあいセンター満奇



満奇洞



まなびの森 新見図書館(サテライト会場)



5. 真庭 | 蒜山エリア

観光文化発信拠点施設「GREENable HIRUZEN」を有し、サステイナブルの価値を体感できるエリア

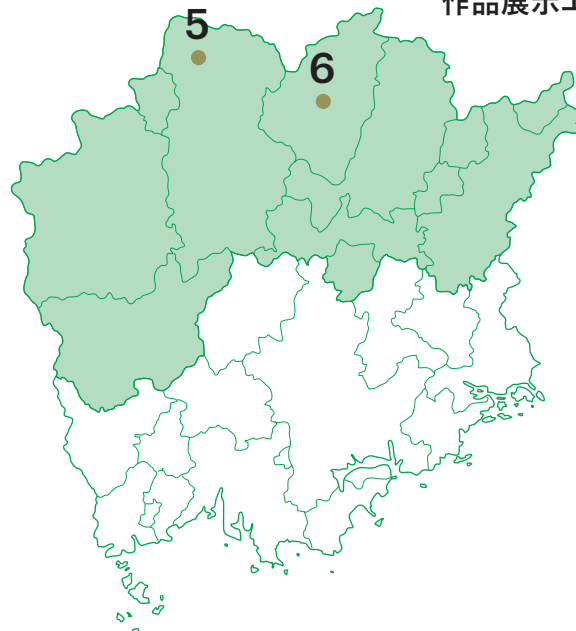


GREENable HIRUZEN



勝山町並み保存地区ほか(サテライト会場)

作品展示エリア



6. 鏡野 | 奥津エリア

透明度が高い美しい水が流れ、秋は紅葉の絶景が広がり、素晴らしい渓谷美を眺めることができるエリア



奥津溪



奥津振興センター

フード

県北部の食の魅力を発信するため、開催エリアの特産品を使用したパフェを新たに開発・レシピ化しました。芸術祭会期中には、エリア内のカフェ等でお楽しみいただけます。

*パフェの写真・情報は2023年度のプレ販売時のものです。



パルフェ レザン

季節が廻り、儚い美しさをイメージしながら、温かなソースがこの一品に特別なライブ感を添えます。ピオーネとシャインマスカットがふんだんに使われ、各層に異なるアレンジをした果汁が洗練された美味しさを引き立てます。口に運ぶ瞬間から贅沢なぶどうを感じるパフェです。

小麦 | 津山市
ピオーネ | 美咲町
シャインマスカット | 岡山県



パルフェ ポワール・マロン

新鮮な梨を、そのままの食感とみずみずしさを保ちながら、コンポートに仕立て、和梨の繊細な香りを引き立てつつ、洋梨のような食感に仕上げ、梨と栗の組み合わせで秋の風情をお楽しみいただける一品です。キャラメル濃厚な風味と栗の香り、梨のみずみずしさが、温度変化によって移りゆく味わいを楽しむことができます。

小麦 | 津山市
梨 | 新見市
ジャージー牛乳 | 真庭市
栗 | 勝央町



パティシエ

鈴鹿成年 | Naritoshi Suzuka

岡山県美咲町出身。岡山県立津山東高等学校食物調理科卒業。
2023年1月、フランスリヨンで開催された「第18回クーペ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリー」において、鈴鹿氏がリーダーを務める日本チームが世界第1位に輝く。

コメント：

生まれ育った岡山県北の地で、森の芸術祭というアートに触れ合える機会があることは、本当に素晴らしく、パフェの監修者として参加させていただけるということは非常に光栄に思っております。今回のパフェは、この県北エリアの素材を活かし、この地域の豊かさを感じていただけるようにと思いながら作成しました。

「食感や香りなど楽しむ」「演出によるライブ感を楽しむ」「食べて楽しむ」
そんなパフェでお客様の思い出のページに刻んでいただけますと幸いです。
ぜひ是非ご賞味ください。

チケット

全ての会場に入場できる「鑑賞パスポート」と、各会場ごとに入場料を支払う「単館鑑賞券」の2種類のチケットを販売します。

販売期間

前売:2024年6月7日[金]ー9月27日[金]

当日:2024年9月28日[土]ー11月24日[日]

販売箇所

鑑賞パスポートは次のプレイガイド等で販売します。

*単館鑑賞券は会期中のみ販売。

- ・チケットぴあ
- ・イープラス
- ・ローソンチケット
- ・ArtSticker
- ・tabiwa by WESTER (JR西日本)

	鑑賞パスポート		単館鑑賞券
	前売	当日	
一般	2,500円	3,000円	700円
大学生・専門学生	1,500円	2,000円	有料施設の場合は 各施設入場料
高校生以下・ 障がい者等	無料	無料	無料

*鑑賞パスポートは会期中を通して利用可能ですが、入場は原則として1会場につき1回のみとし、当日に限り再入場が可能です。

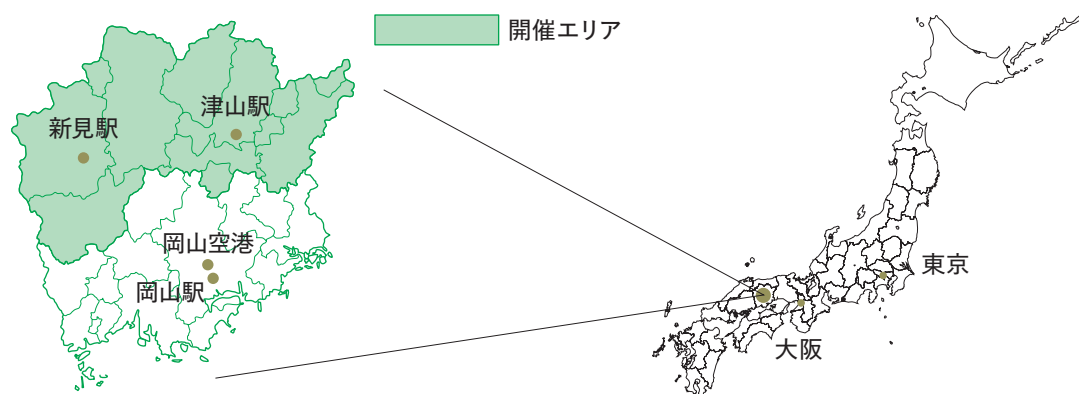
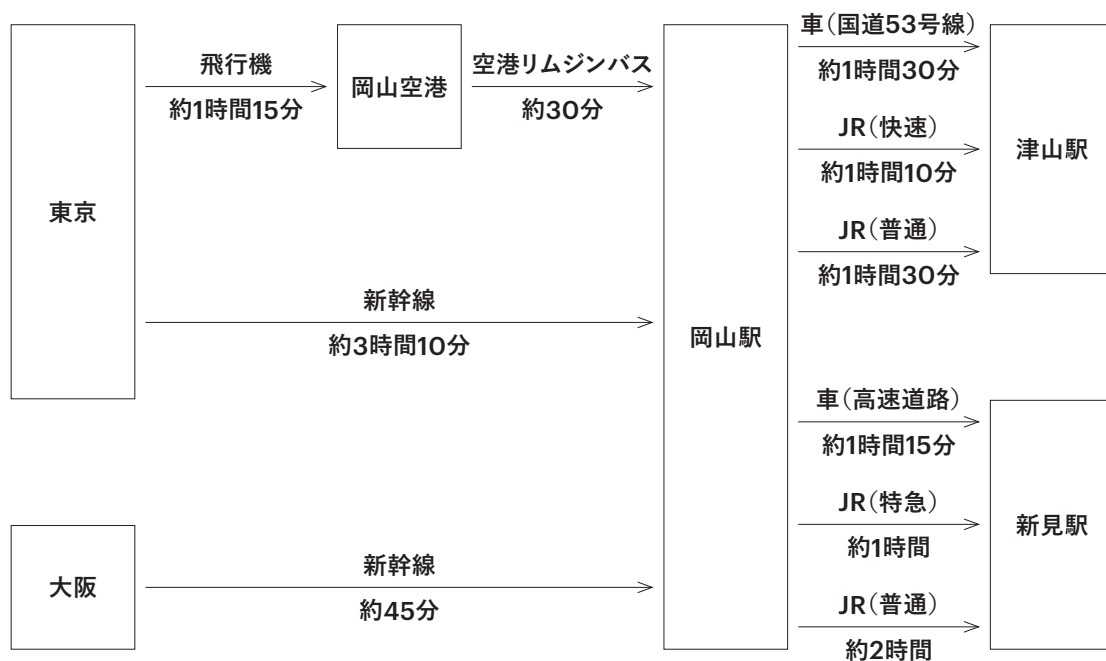
*一部の有料施設では、高校生以下および障がい者等の施設入場料金が有料となる場合があります。

*公共の場所に設置する作品の場合、鑑賞券の購入は不要です。





アクセス



本芸術祭の開催エリアは広範囲に及ぶため、来場者がどの会場にも公共交通機関で訪れることができ、周辺の観光等も楽しんでいただけるよう、バスの運行を計画しています。

オフィシャルツアーバス

作品展示エリアを効率よく鑑賞できるガイド付きオフィシャルツアーバスを、土日祝日を中心に複数のコースで設定します。

Art周遊バス

公共交通機関が不足している作品展示エリア間を繋ぐため、津山駅から鏡野／奥津エリア、真庭／蒜山エリア、新見／満奇洞・井倉洞エリアを結ぶバスを運行します。